

分析結果報告書〔6〕 1 / 3

1. 6 模擬排水試料（総水銀）

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	1. ISO 9001～9003 2. ISO/IEC 17025(か ^ド 25) 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1～4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	() 年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

<重金属類の経験等>

廃棄物の重金属類成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない
土壌の重金属類成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない
環境水、排水等の重金属類成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない

<分析結果>

回数	分析結果 (mg/L) 注1)	
	検出下限値以上 注2)	検出下限値未満の場合：検出下限値 注3)
1回目		
2回目		
3回目		

注1) 記入にあたっては、記入間違いや単位間違い等がないように注意する。配布試料を20倍希釈した後の、分析用試料の測定結果を記入する。「分析結果」については、「検出下限値以上」又は「検出下限値未満の場合：検出下限値」のいずれかを記入する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 分析法の検出下限値未満であった場合、分析法の検出下限値 (MDL) を有効数字1桁で記入する。

<分析開始日等>

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

<分析方法等>

分析方法	1. 還元気化原子吸光法 2. 加熱気化原子吸光法 3. その他 ()
配布試料を希釈した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他 ()
測定に使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他 ()

<前処理>

試料量 (分析用試料の分取量)	() mL
準備操作(前処理)	1. 硫酸・硝酸・過マンガン酸カリウム分解 2. 硝酸・過マンガン酸カリウム還流分解 3. 硝酸・塩化ナトリウム分解 4. その他 () 5. 前処理を行わない
前処理後の溶液(定容量) 注1)	() mL

注1) 定容とせず、全量で準備操作(溶媒抽出等)した場合には、記入しない。

分析結果報告書〔6〕 2 / 3

<試験溶液の調製>

試料量 (分析用試料の分取量)	() mL
前処理	1. 行う 2. 行わない
前処理 試薬の添加 注1)	硝酸 () mL 硫酸 () mL 過剰の過マンガン酸カリウム溶液(5%) () mL ペルオキシ二硫酸溶液(5w/v%) Δ(5%) () mL その他の試薬 ()
加熱 方法 概略温度	1. 水浴 2. 熱板 3. その他 () () °C
過剰の過マンガン酸カリウムの分解	1. 塩化ヒドロキシルアンモニウム溶液を使用 2. その他 ()
前処理後の溶液(定容量) 注2)	() mL

注1) 使用しない場合は0 mLと記入する。

注2) 定容とせず、全量を測定した場合には、記入しなくてよい。

<測定>

試料溶液の分取量 注1)	() mL
方式	1. 密閉方式 2. 解放送気式 3. その他 ()

注1) 全量を測定した場合には、記入しなくてよい。

<検量線の作成等>

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他 () ()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	() 最小 () ~ 最大 () 注1) 作成範囲の単位：1. μg 2. mg/L 3. その他 () ()
検量線作成用標準液の作成方法	1. 試料と同じ前処理操作を行う 2. 標準原液から希釈 3. 標準品 (粉末) から調製 4. その他 () (2., 3. の場合の希釈溶媒：) a. 硫酸 (1+1) () mL 水 () mL b. 0.005% システイン水溶液 (硝酸 %) () mL c. その他 () (3. の場合に用いた試薬 ())
試料の指示値 注2)	1回目 () 2回目 () 3回目 ()
空試験の指示値 注3)	()
検出下限値	() mg/L
装置検出下限値 (IDL)	() mg/L 注5)
IDLの算出方法	1. JIS K 0102 66.1に記載されている数値を引用 2. JIS K 0121 (原子吸光分析通則) 附属書に記載されている方法 3. 3σ法で計算 (3. の場合 σの算出法：(濃度) mg/L (繰り返し回数) 回) 4. その他 ()
分析法検出下限値 (MDL)	() mg/L 注5)
MDLの算出方法	1. JIS K 0102 66.1に記載されている数値を引用 2. JIS K 0121 附属書に記載されている方法 3. 3σ法で計算 (3. の場合 σの算出法：(濃度) mg/L (繰り返し回数) 回) 4. その他 ()

注1) 分析装置で測定する溶液中の量 (μg) 又は濃度 (mg/L) 等を記入する。

注2) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注3) 標準添加法では記入しない。

分析結果報告書〔6〕 3 / 3

<試料の保存状況>

保存状況	保存方法等 保存時間 注7) 保存温度	1. 冷暗所保存 2. 保存しない(直ちに分析) 3. その他 () 約()℃
------	---------------------------	--

注7) 時間単位で記入する(例えば、60分では1時間とする)。

分析実施にあたっての留意した点及び 問題と感じた点	
------------------------------	--

計算式	
-----	--